

2025年10月12日 聖霊降臨後第18主日「あなたの信仰があなたを救った」

(列王記下5:1—3,7—15 2テモテ2:8—15 ルカ17:11—19)

先週、イエスさまは弟子たちに「信仰は増やすものではない」と教えられました。「信仰は辛子の種ほど小さくても、あれば十分なのだ」と語られたのです。けれど今の世界では、「信仰をもって生きている」と言うことが、少し恥ずかしいような雰囲気があります。

「宗教の話は公の場ではしないほうがいい」という暗黙の決まりのようなものがあるからです。でもこの決まりは、「信仰を押しつけること」や「信仰による差別」をもう二度と起こさないために作られました。

日本政府はかつて、韓国や台湾などで「天皇制」という国家神道を強制し、支配の道具に使ってしまったことがあります。そして今、世界のあちこちで、その歴史をなかったことにしようとする動きが見られます。イエスさまを信じる者として、私はその流れに「NO!」と言いたいのです。

少しでも気を許すと、天皇制の亡霊に取り憑かれた人たちが、不満を持つ人たちの心を取り込んで、「敵が攻めて来る」と恐怖をあおります。そして軍隊を作って戦争をはじめようとします。すると兵隊にむかない人たち、外国から来た人たちや、病気を持っている人たち、女性たちや子どもたちは差別されます。

今日の聖書に登場するのは、重い皮膚の病気をもった十人の人たちです。彼らはイエスさまに近づくことができません。人々がその病気を恐れて、差別していたからです。彼らは村の外に追いやられ、社会からも神殿からも遠ざけられていました。だから遠くから大声で、イエスさまに呼びかけます。

「イエスさま、先生、どうか私たちをあわれんでください!」

彼らは「病気を治してください」とは言いません。ただ、「あわれんでください」と祈ります。それが彼らにできる精一杯のことでした。でも、それで十分だったのです。

イエスさまはその人たちをちゃんと見つめられました。当時の人々は、この病気は罪のせいだと考え、近づこうともしませんでした。けれどイエスさまは違いました。彼らを見つめて、「祭司たちのところへ行って、体を見せなさい」と言われたのです。

祭司に体を見せて「治った」と認められれば、彼らは社会に戻ることができます。もし治っていなければ、再び拒まれて、イエスさまも非難されるかもしれません。それでもイエスさまは彼らに、神殿に行って祭司に体を見せるように命じました。そしてその途中で、彼らの体は癒やされたのです。

けれどイエスさまのもとに戻ってきたのは、たった一人だけでした。しかもその人はサマリア人でした。他の九人はもう戻らず、何もなかったかのように新しい生活を始めたのです。サマリア人はイエスさまの足もとにひれ伏し、感謝しました。するとイエスさまは言われます。

「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

ここで大切なのは、「あなたの信仰が『病気を治した』」とイエスさまが言われたのではないことです。「救い」は病気が治ったことだけを指していません。

「立ち上がって行きなさい」という言葉こそ、このサマリア人への祝福でした。病気が治ったことよりも一番大切なのは、感謝の心と、もう一度歩き出す元気を、心にともす希望の光です。それが「信仰による救い」なのです。

ルター派の信仰に立つ私たちは、「清い」という言葉に少し違和感を覚えます。清くなければ生きてはいけないのでしょうか。いいえ、そうではありません。生きるということは、罪や弱さを抱えながらも、互いに助け合って歩むことです。

純粹で一つである事にこだわるのは危険です。世界の歴史の中ではこれまでも、清さを求めるあまり、多くの人々が差別され、苦しめられてきました。ドイツでこの日本で、民族浄化という言葉のもとに、また病気への偏見によって、たくさんの人々が傷つけられました。宗教弾圧も繰り返されました。

今の日本でも、ハンセン病に対する差別は終わっていません。社会の偏見から、

患者であった人たちを守るための施設が、今も十四か所あります。戦後もしばらくの間、患者の人たちは法律で家族から引き離され、強制的に施設に入れられました。高い壁に囲まれた場所で、人々は外に出ることを許されませんでした。

だからこそ、信仰が心の支えとなりました。施設には教会やお寺、神社があり、多くの人が祈りの中に希望を見出してきました。

けれど、どんなに宗教が人を支えても、信仰は決して強制されてはいけません。イエスさまの与える信仰は、すべての「強制」からの自由です。イエスさまは今も、わたしたち一人ひとりに語りかけます。

「立ち上がって行きなさい。」

これは、「もう一度、新しい一歩を踏み出しなさい」という招きです。どんなに弱っていても、どんなに罪を背負っていても、神さまはわたしたちを立ち上がらせて、共に歩んでくださる方です。それが、イエスさまの与える救いであり、信仰の力なのです。主を信じて、希望を持って、共に平和の道を歩み続けましょう。